

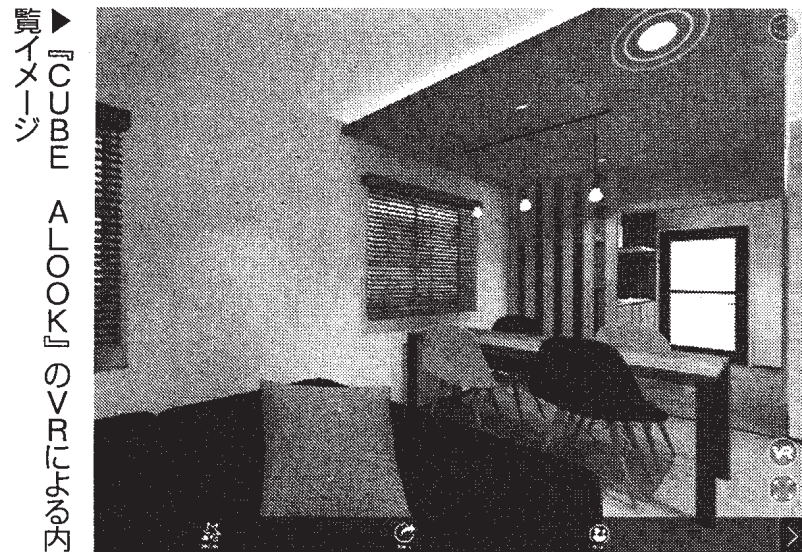
空間のトータルプロデュース提案

野原住環境 VRで早期集客も支援

住宅資材の販売を手掛ける野原住環境（東京都新宿区）は2018年12月、3Dパースを用いた360度VR作成サービス『CUBE ALOOK』

K（キューブアルク）の提供を開始した。17年11月から提供している空間プロデュースサービス『CUBE』における付加機能となる。

『CUBE』は、空間の意匠設計や3Dパースによる完成イメージの共有、コストや施工性などを設計段階から検討できるサービスとなる。コストとデザイン性を両立させることで、収益性の高い物件づくりを目指す。『CUBE ALOOK』では、家具や小物を物件パース内に配置するバーチャルホームステージングや疑似内覧を可能にすることで、竣工前の入居募集など早期集客につなげる。



▶『CUBE ALOOK』のVRに活用するイメージ

今年3月、大阪市内に竣工を予定する東急不動産の賃貸マンションでは、全137戸中24戸で『CUBE』による設計プランを採用した。若年層を対象にインスタグラムなどのSNSサイトで写真映えする空間を提案し、採用に至った。標準タイプの部屋よりも約10

％高い賃料に設定。来月を目途に『CUBE ALOOK』での入居募集を進めていく。『CUBE』で用いる

建具や建材はメーカーの既製品が中心のため、採用決定後は納期が早く欠品が少ないこともメリットになる。